妙の光

通刊80号 **復刊60号**
2007年12月20日（季刊）
角田山妙光寺 発行
〒953-0011
新潟市西蒲区角田浜1056
TEL 0256－77－2025

注連縄作り

お寺に神棚はなく「大黒様」と除夜の鐘を撞く鐘楼に飾る注連縄を綯うのが、暮れの大きな仕事のひとつ。ことに「大黒様」の方は極太で市販のものでは間に合わず、ここ何十年も檀徒の笹川耕一さんが手がけてくれている。

笹川さんは、夏自分の田んぼで青刈りした稲を日陰に干し、青々したワラにして保管。その上で一本一本無駄な部分を抜いてさらに叩いて柔らかくし、はさみなど道具を持参でお寺に出かけてくる。太い注連縄というのはコツと力が必要で、男性三人がたっぷり一時間以上はかかる。

完成してさげたのを眺めながら今年の出来栄えを語り合うと、いよいよ正月が近いことが実感される。「親父が歳で出来なくなったら、俺が後を継ぐさ」と言った倅さんの言葉に安心させられた。

炉辺の父注連縄綯いながら受け答え　　常田みちを

仏前結婚式

小川英爾

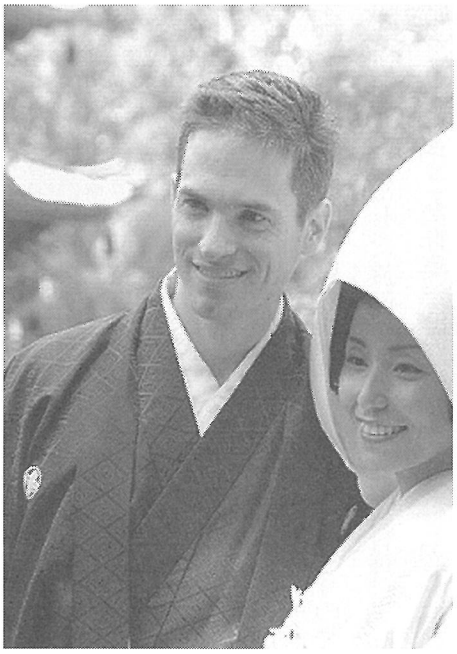
秋も盛りの十一月三日、小春日和のおだやかな日差しの中で仏前結婚式を営みました。これまでも数回ありますが、新本堂では初めてです。しかも新郎がアメリカ人、新婦が日本人の国際結婚、これも初めてでした。実は新婦が小川けいといって、私の兄の三女で姪に当るのです。身内のことで恐縮ですが、アメリカからの親族友人も、新婦の日本の友人たちにも大変喜んでもらいました。身内だからという特別扱いはなく、妙光寺にご縁のある方ならどなたでもお引き受けしますということをお伝えしたくて紹介します。

第一章　式の流れ

三十四歳の新婦は高校卒業後渡米、カメラマンの学校を出ました。その後役者を目指してレッスンを受け、映画「ラストサムライ」他、いくつかのハリウッド映画にチラリと出ています。今アメリカで流行の瞑想を教えるところで彼と出会い、二人で仏教に関心を持ったようです。三十三歳の彼はパタシニ・ドンライアンといい、写真の仕事をしています。彼女が役者の夢を諦めたのかどうかは聞き忘れました。

なるべく簡素にという新郎新婦の希望で、特に費用のかかる華美な装飾はありません。受付で記帳し、丸い立ちテーブルを並べた大広間が控室で、昼時をはさむのでパンと飲み物、桜茶のセルフサービス。式場の本堂には仏様の前に少し華やかな花とお供えの品が数品並び、白布をかけたテーブルには親族固めの盃用に〝かわらけ〟を並べ、アメリカ人十二名を含む列席者四十名の椅子を用意しました。ほとんどが妙光寺の備品で、消耗品の〝かわらけ〟も甥の一年前の結婚式の残りを提供してもらいました。

準備で苦労したのが、式の進行と内容がわかるように説明した式次第です。英語に訳してもらうためにはまず分かり易い日本語にする必要があり、頭を悩ませました。いかに普段わかりにくい言葉を使っていることかと、反省させられました。予定はありませんが、次の機会にはそのまま使えます。それと前日に葬儀が入り、同じ日の本堂の模様替えが大変でした。葬儀と結婚式、いずれも仏様のお膝元で行うのですから、違和感はありません。



式は私と弟子の鎌田、それに新婦の従兄弟にあたる私の甥が手伝い、司会進行を研修生の矢部、その通訳を大学生の娘が担当しました。毎年四月の祭礼でお願いしている楽人二人による雅楽の生演奏が、雰囲気を盛り上げました。また色とりどりの紙の花びらを撒く散華には、式場がさらに興奮です。

式はまず式場を花びらで飾り音楽を奏でて仏様をお迎えし、敬いと感謝の思いでお経を唱えます。その仏様の前で結婚を奉告し、住職から記念に新郎新婦に数珠を渡し、永遠の愛情を誓って三々九度の盃を交わし、指輪を交換、そして住職から妙光寺で式を挙げた証明証を渡します。この間も雅楽が流れています。続いて司会の発声で親族が固めの盃を交わします。一同でお題目を唱え、住職が二人の幸せを仏様に祈り、最後に四つの誓い（人を救う、迷いを断つ、仏様教えを学ぶ、悟りを求める）を皆で唱えて終わります。英訳文もついた式次第を銘々に渡し、要所要所では司会進行が説明を加えて、全体で35分にわたりました。

式の数日前になって「彼はお酒を一滴も飲まないから、三々九度は水にして」と姪から言われ、「水盃は別れのときだよ」と冗談のような私とのやりとりがあり、どうするか思案しました。確かに仏教本来では酒は禁物です。結果はアルコールのない日本酒があり、これで納めました。根本的な解決ではありませんが・・・・。

新郎とその友人たちは瞑想が好きというだけあって、酒はもちろん肉や魚を一切食べない菜食主義者なのだそうです。アメリカでは肉中心の食生活に疑問を持つ人が増えて

いるそうで、菜食主義のレストランも多いとか。逆に日本で菜食主義者が外食することはほぼ無理で、旅行中はとても困るそうです。煮干や鰹節も一切だめで、昆布ダシというのですから。そこで式の前日宿泊した旅館では完全な精進料理に、披露宴でも豆腐のステーキとか野菜だけだったのです。「それでいて栄養補助の錠剤なんか飲んでいるんだからねえ」とは姪の母親の言葉でした。

他にも着付けや写真、披露宴の進行、移動の車の手配等々、アメリカの本人、仙台の父親、そして新潟とやりとりするのですから話しの行き違いも多く大変でした。こうして無事結婚式も終え、披露宴会場のレストランに移動したときはホッとした次第です。

第二章　新郎新婦にとっての結婚式

質問一、二人のどちらが妙光寺でやろうと言い出したのか。

妻のけいです。

質問二、それはなぜか。

アメリカに来てこの十年間に起こった色々な小さい事が影響し合って〝自分が属する〟場所で結婚式をしたいと思うようになりました。まずその大きい理由として、色々な人種が共存するロサンゼルスに住み、日本にいた時よりそれぞれの〝宗教〟の違いというものに触れたことでした。日本のように神道、仏教が同時に混在する文化というのは本当にまれだという事を知り、またクリスチャンでもないのに、ホテルのチャペルで牧師さんの前で結婚式の宣誓をあげるということは、やはりおかしいと思うようになりました。

それから、国の歴史が浅いアメリカにいると、日本文化への尊敬が生まれます。それと同時に日本人である事への〝誇り〟も生まれますから、父の生家である妙光寺が必然的に第一希望としてあがりました。もちろん、遠く離れて暮らすことになる

両親への親孝行も理由に入ります。特に父が喜んでもらえることは分かっていたので、それも決定理由の大きな一つでした。

幸い、主人のドンの両親はユダヤ教、キリスト教の家系でしたが信仰はあまりないので反対もなく、主人の方はインド文化、日本文化に興味があり、その流れで仏教にも関心がありましたので喜んで賛成してくれました。来年はこちらで披露宴だけをする予定ですが、主人の父親に合わせて少しばかりユダヤ教のやり方を付け加える予定です。

質問三、仏教に対するイメージは？

これはドンに答えてもらいます。（以下ドンの文章の訳文）仏教はこの世に存在する宗教の中で自分が共感する二つの宗教のうちの一つです。（もう一つはヒンズー教）。仏教のイメージとして、まずは〝他人や自分の周りに存在するものを大切にする〟というものがあります。仏教を通して他人をいたわること学び、他人を通して自分を学ぶ、そして非暴力の教え、はこの世の中でもっとも大切なことだと思いますし、深い精神ではないでしょうか。

質問四、仏前結婚式の感想は？

二人ともリハーサルで感じた事は予想以上に儀式的、ということでした。それでも流れを通して、何が起こっていてその一つ一つの動作の説明を伺っているうちに、とても意味が通っていると言いましょうか、本当に納得できました。お釈迦様をお迎えするために花びらを撒く切散華や、誓いの盃、親族固めの盃など一つ一つが本当に意味のあるもので勉強になりました。〝お仏さまに二人の結婚を奉告〟と言う時には〝あーお釈迦様に認めてもらうのかー〟と心の中でありがたいなあ、という気持ちがあった事を覚えています。やはり、お経のあげ方を知らない私でも、神道などの神様よりもお釈迦様の方がずっと身近ですから実感がありました。

主人の方は、とても神聖な場所にいる、と感じたらしく、目をつぶってそれを味わっていたらしいのですが、実はとなりに

いた私は、「寝ている!!!」と思ってドキドキでした。お経って聞いていて心地よいところがありますから、リラックスしすぎて眠くなったのかと思った私は冷や汗でした。笑。

第三章　新婦家族と長年にわたる交際の新聞記者の感想

お寺さんでの結婚式は初めてだったが、終わった後の印象はご住職のオーラもあって実に見事なものだった。昔ながら、というよりも時代劇でしか見たことの無い角隠し姿の花嫁が花婿の後から回廊を通って本堂に入ってくる瞬間は、舞台装置といったら叱られるかも知れないが、見ごたえのある建物の本堂だけに「お見事」と声を上げたくなり、歓声を押し殺すのに苦労した。

雅楽の演奏が奉納され、底力を感じさせる読経の中、撒き上げられる五色の色紙が花婿と花嫁に散り掛かる様子は、一幅の名画を見たように眼の中に残っている。山の紅葉、本堂の前に鮮やかな黄色に変じた公孫樹の巨木が静かに二人の今後を祝福してくれている秋の一日。心温まる、良い結婚式に立ち会えたとうれしくなった。

これほど充実した一日を準備された皆さんに、花嫁けいちゃんを知る一人として心から感謝を申し上げたい。

第四章　新郎の母からの手紙　シェリル・パタシニ

ある時、名前は〝けい〟という美しい日本女性がアメリカへ来て、若いハンサムな男性〝ドン〟に会いました。二人は恋に落ち、時期が来て結婚を決めました。この事は私を本当に幸せにしてくれました。なぜかというとその若い男性は私の息子で、その女性は私も本当に大切にしたいという相手だったからです。このような義理の娘をいつも欲しいと思っていました。結婚式は妙光寺という〝けい〟の親戚のお寺で行われました。

美しさの象徴と呼ばれる日本へ行くことは本当にうれしい事でした。そして私の娘とその家族も参加できた事も素晴らしい

ことでした。皆けいを本当に尊敬していますし、なによりも違う文化を家族で経験できるという事は貴重なものでした。この経験をさらに特別な事に出来たのも、この結婚式がけいの叔父に当たる住職によって挙げられたという事でした。

式の前日、けいの両親が我々を旅館に招待してくれたのですが、これもまた素晴らしい所でした。そして数えきれないほどの種類と量の美しい夕食が出され驚くばかりでした。そこで、けいの叔父の妙光寺住職に合い、彼の素晴らしい奥さんと子供たちにも会う事が出来ました。私が日本語をもっと話すことが出来たら沢山会話ができたのにと残念でなりませんでしたが、ぜひこの次は勉強をしてまた新潟へ行くことができたらと思っています。けいの姉の子供たちと私の孫たちは互いの言葉を理解しないにも関わらず、仲良く遊びこれもまた貴重な時間でした。こんな楽しい経験は本当に始めてでした。

次の朝、皆で朝食を食べ、お寺へ向かいました。妙光寺は本当に美しい場所にあります。境内を歩き、庭園の眺めなどをとても楽しみました。建築も素晴らしかったです。平和的でとても迎え入れられている感じがしました。

お寺へ入るとき、それぞれが記帳をし、靴を脱ぎました。そして遠くからきたゲスト用への奥の待合室に通されました。そしておいしいお茶菓子とお茶を頂いたのですが、お茶の底には花びらが見え、なんてかわいらしかったこと。お茶を頂いた後、けいが準備をしている部屋へ向かい、けいはとてもきれいでした。

その後、写真を撮りに外へ向かった時に初めて息子が日本の伝統である衣装を着ているのが見えました。彼がとても幸せそうに見え涙が出て大変でした。沢山の写真撮影はお寺の三重塔というきれいな塔の前で行われ、皆に会えた喜びはなおさら、初めて見る大きな白い蜘蛛と巣に皆がおどろいたことも忘れられない思い出です。

小さい鐘がなり、式の始まりの合図でした。その時には私の孫はすっかり眠ってしまい、その後の大きい鐘の音の時もまだ眠ったままでした。式はとても厳かで、美しい音楽とお香のにおいがまたその雰囲気をさらに盛り上げていました。二つの家族の結びつきを意味する親族固めの杯は印象的でした。本当にけいの家族、親戚に出会えてよかったと思います。

唱題は難しかったですが、しばらくすると〝南無妙法蓮華経〟が言えるようになりました。式が終わり皆で写真を撮りました。披露宴会場へ向かうバスに乗り込む時に、私は息子が結婚式を挙げた素晴らしいお寺を振り返り見て、自分の幸せさを感じずにはいられませんでした。こんなに美しい場所に来られたなんてなんと言う幸運でしょう。私たち家族に親切にしてくれた皆さんに心より感謝を申し上げます。

寺の動き

前寺工事と秋の催し

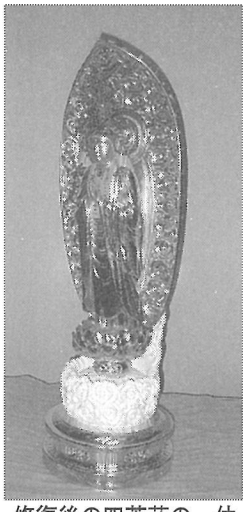
・前寺工事着工の見通し

以前に境内にあり老朽化で解体した前寺の再建ですが、ようやく県の許可が一月十日に出る見通しとなりました。現在は業者と工事金額についての折衝を進めている段階です。現場で本格的に建築が始まるのは春三月からになりますが、その前に雪の様子を見ながら木の移植、道路の付け替え、基礎工事にかかります。位置は勝手口への通路脇で、五月連休後の建て前、七月中の完成予定です。

県の許可を得るための測量、申請書類作成等々に予想外の経費がかかっています。そこで業者と契約し工事費用がはっきりした段階の次号で、全体の計画をお知らせします。こうした一連の費用は河野清一さんの奉納によります。

この前寺に安置する旧本堂の仏像一式の修復が一足早く完成しました。江戸時代末期のもので痛みがひどかったのですが、見事に修復できました。費用を奉納いただいた方々には心からお礼申し上げます。前寺完成前に、何らかの形で皆様にご覧戴くことを検討します。

修復前



修復後の四菩薩の一体

・身延山団体参拝旅行

総本山身延山久遠寺と七面山への団体参拝旅行を、九月三十日から二泊三日で行いました。関東からの合流二人を加えて総勢二十一人の少ない人数でしたが、バスを中型に変更し、和気あいあいと大変楽しい旅でした。

八人が七面山登詣しましたが、心配した雨にも降られずとても速いペースで元気に登山。翌朝のご来光は残念でしたが、夜の勤行も厳かで感動したとのこと。

残り十三人は身延山奥の院、静岡の海長寺参拝、焼津の温泉に泊まり、こちらはゴージャスな旅館に感動しました。翌日身延山裏手にある江戸時代の参詣道を散策し、妙福寺といういわれあるお寺にお

参りし、七面山登詣組と再会して昼食、途中昌福寺参拝を経て新潟に戻りました。

●お会式、法号授与式

日蓮聖人第七百二十六回目の命日の法要であるお会式にあわせて、第六回目の戒名授与式を十一月十一日に行いました。体調不良等で欠席の方を含めて十五名が希望され、鎌倉から親子で参加の方もありました。

九時から始まり数珠の意味や持ち方、正座のコツ、お経の意味まで入門を研修していただきました。十一時から祖師堂で他の出席者六十名と一緒にお会式に臨み、その中で戒名授与をいたしました。昼食後、家庭内暴力を受ける人たちを救う活動で知られる尼僧で、戸沢宗充法尼が琵琶の音色に乗せて語る法話に耳を傾け充実の一日を終えました。

琵琶を奏でながらの戸沢法尼の法話

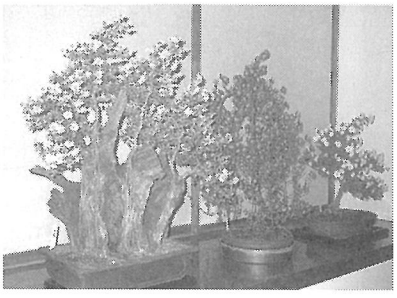
●秋のコンサートしみじみと

タイの女性たちが一枚づつ手紡ぎ、手織りした草木染めで〝さとうさぶろう〟さんがデザインした服を展示販売する催しを十一月二十三～二十五日に行いました。これに併せて二十三日夜、木村俊介（笛、津軽三味線）池上眞吾（箏）西田ひろみ（バイオリン）のコンサートを開き、懐かしい調べ、心洗われる音色が本堂に響きました。八十名余りの参加でもったいないくらいでしたが、演奏者としては一番いい雰囲気だったとのことで、最高に贅沢な一夜でした。

三人とも若いながら一流の演奏者です。池上さんは宮城道夫の「大日蓮」と言う大曲を東京有楽町の大ホールでも演奏された日蓮宗の檀徒で、菩提寺が戸沢法尼の長男が住職する静岡の寺ということが偶然わかり、お互いびっくりでした。

●菊花展示

今年も丹精込めた菊の花を、内藤清さんが玄関に展示してくださいました。見事に花を付けた小菊の鉢に、訪れた方々が見入っている姿がありました。さらに今年は松山の河村一良さんも一鉢展示され、いっそう華やかな秋でした。



●研修生の近況

修行中の矢部ですが、九月に身延山で一週間の講習を受けてから検定試験を受

験し合格しました。さらに十二月七日金沢のお寺での読経試験にも最優秀の成績で合格しました。次回は来年夏身延山での三十五日間の修行を終えれば、僧侶資格が与えられます。

●中越沖地震義援金報告

七月十六日の新潟県中越沖地震による被災地及び被災寺院への義援金をお願いしてきました。郵送の方や直接お持ちいただいた方、玄関の募金箱に入れていただいた方等々、合計で一八五、〇七五円になりました。あつくお礼申し上げます。これに妙光寺拠出分を加えて、十二月十一日取りまとめ先の日蓮宗新潟県東部宗務所に届けました。宗務所で現在集計中ですが総額で四百万円を超える見通しとのことです。ご報告させていただきます。

●「週刊ダイヤモンド」で紹介

マスコミに取り上げられることの多い妙光寺ですが、今回は一月七日発売の「週刊ダイヤモンド」で紹介されます。一般経済誌ですが、毎回ユニークな特集で知られています。取材の副編集長は「心が荒廃していま宗教がとても大切な時代なのに、お寺がさっぱり機能していないのはなぜか。経済の視点で切り込んでみたいので、頑張っている住職の話が聞きたい。」と。六百円以下で一般書店に並びます。

●秋奉加

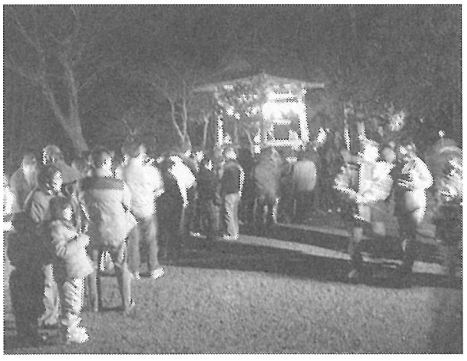
農家の檀徒の皆さんから秋の新米を奉納していただく秋奉加ですが、今年も多くの方々からお供えいただきました。秋から祖師堂にお供えして新年を迎えます。ありがとうございました。

●「除夜の鐘」案内

大晦日の「除夜の鐘」には遠方の方を含めて毎年たくさんの人が集まります。檀信徒以外で近隣のしかも子供連れや若い人のグループが目立ち、昨年はどこかのお宅の客人でしょうか外国人の姿もありました。境内がライトアップの明かりとお焚き上げの火に照らされ、鐘の音と人々の賑わいの声が響きます。

十時半から本堂で除夜法要、十一時四十分ころから鐘撞きが始まります。撞いた順のわかる番号入り記念品として、境内の大イチョウの木で採れたギンナンを差し上げています。今年は豊作だったので多めに入っています。さらにくじ引きで縁起物の熊手等も当たります。コンニャク、甘酒もあります。お出かけください。お焚き上げにご家庭の古いお札、注連縄等をお持ちください。

中越沖地震被災地の復興の象徴として、柏崎市「番神堂」の除夜の鐘がNHK「行く年来る年」で中継されるそうです。ここは赦免になられた日蓮聖人が、佐渡から戻る途中上陸された霊跡です。妙光寺においでになれない方は、この放送で新年をお迎えしてはいかがでしょう。



お札の話

地元の全檀徒宅に暮れのお経に伺いながら、来年のお札をお届けしています。これは新しく貼りなおして新年を迎えていただくお札です。古いお札は大晦日のお焚き上げにお持ちになるか、祖師堂に古いお札類を入れる箱が常時あります。他所でいただいたお札も結構です。

一、「南無妙法蓮華経・角田山」のお札は門札（かどふだ）といい、日蓮宗で妙光寺の檀徒であるという表示と、併せて不幸を排除する目的で、玄関先などの出入り口に貼ります。

二、「御守護」は文字通りお守りで、不幸の無いようお守りいただくものです。

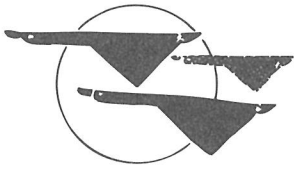
三、「火不能焼水不能漂」は三宝荒神を表わし、日蓮宗では鬼子母神のお札となります。「令百由旬内無諸衰患」は毘沙門天のお札です。両方ともお題目を信仰する人を永久に衰微させずお守りするというものです。

＊初めてで貼り方がわからないと言う方には、別紙でお知らせしています。ご希望の方にはお届けしますので、お知らせください。

安穏会員アンケート調査ご協力のお願い

同志社女子大学大学院生の岡田さんの安穏廟に関する調査研究のため、アンケートを一部の安穏会員に同封いたしました。経費の都合で、無作為に百名の方を選んでのお願いです。

一昨年、アメリカ・プリンストン大学で住職の講演を聞いた同大学の謝教授から依頼されたのがきっかけです。年末年始でご多忙中誠に恐れ入りますが、ご協力いただきたくお願いします。



あんのんのページ

「一の廟」の改修工事 他

九月のNHKテレビ放送で問合せと申込みが多く、「杜の安穏」も残り区画がわずかになっています。大変ありがたいことにご紹介による申込みも多く、この場合お断りしにくいので、今後拡張による増設は無理ですが敷地内で若干の増設が可能か検討中です。

安穏廟も一基目ができて十九年が経過しました。最初の建設で施工上の不備もあり、このたび「一の廟」の修復工事を行っています。内側の経の区画は笹の根が侵入し、これに負けてサツキが枯れてしまいました。この土を全て撤去、裏側をかさ上げして縁を切り、さらに排水設備を強化、新しく保水性の高い土を入れてサツキを植えます。また外側に植えたヒイラギ木犀が風に弱く、成長に著しい差がでました。これを別の樹種に植え替えします。

杜の安穏も一部に傾きがでたり、苑路の一部で沈下が見られます。この対策も業者と検討中で、暫時対応していきますのでご了承ください。

本人の死後、親族に代わり妙光寺が葬儀の一切をお引き受けする「生前契約」の希望者が少しずつですが増えています。相談を受けると住職が面談の上、ご希望を具体的にお聞きして契約文書にします。見積もった費用を預り証と引き換えにお預かりし、妙光寺の預かり金口座で保管します。途中で本人の意思が変わり契約解消の際は全額返金しますが、これまでにはありません。この秋には三件の契約が実行され、親族の方から大変喜んでいただきました。

夏に完成予定の前寺がこうした葬儀にもご利用いただけます。生前契約ではありませんでしたが、この前寺の完成を心待ちにしていた新潟市内の女性の最期に間に合わなかったのが残念です。また葬儀はお寺でしか行えないと心配される方がありましたが、檀徒の葬儀には住職が新潟市内の斎場でも県外にも出向きます。その際にどうしても日程調整が困難な場合は、妙光寺の代理として他のご住職をお願いしていますので心配いりません。

寺庭から

「銀杏豊作」

小川　なぎさ

この季節は毎日冷たい雨が多くて滅入ってしまいます。いかがお過ごしですか？私は晴れ間を見ながら銀杏をひろい、境内の川でザブザブ洗って数日かけてようやく作業が終わりました。雨合羽に長靴、ゴム手袋の完全装備。参拝の年配女性に「おばさん！たくさんあって大変だね。」と声をかけていただいたのは嬉しいのですが、（はっ・・私っておばさんだったんだぁ）と少ししょんぼり。しかしその昔、姑のたまちゃんはとても小さく小柄な人だったので、かがんで銀杏を拾っていたら、本堂前に猿がいた!!と言われたとか。とにかく一年中お経を聞いて育った銀杏の実、今年は豊作です。除夜の鐘つきで皆さんのお分けしますのでお出かけ下さい。

九月にテレビで安穏廟が紹介されてから問い合わせや申し込みが続き、残りが僅かとなりました。このことは私にとっては肩の荷を下ろすような、ほっとするような、ばんざいをして走り回りたい気分です。同時にたくさんの方々のご理解とご協力の賜物と心から感謝申し上げます。結婚して二十四年、そのうちの十九年間は安穏廟とともに仕事をしてきました。おかげで数年前からは私自身も給料をいただくこともできるようになり、スタッフも増えたので体力的には随分楽になりました。

小さな子どもをおんぶして庭の落ち葉を掃除し、暗くなるまで古い本堂の大掃除をしたり、夜は仏器みがき、大きな窓ガラスも拭いていました。その頃の妙光寺は本当に経済的に苦しかったので、出来ることはなんでも自分でしなくてはならなかったのです。その修行？のおかげで、今のたくましいワタシがあるわけなのでありがたいと思っています。四人の娘にも恵まれ、姑の介護もさせてもらい、実家の母に言わせれば「嫁として普通より濃密な凝縮された時間を過ごした、だからあなたの健康が心配だ、若い時の無理が年齢とともに出るんだよ。」でも心配なく、今のところは元気ですから。

落語家の小朝師匠が先日離婚しましたね。奥さんの泰葉さんが「妻という感じではなかった、家で話すことも落語や仕事の話ばかりだった。」と言っているのを聞いて感じ入りました。安穏廟という大きな仕事をかかえた私たち夫婦の暮らしもまさに同じようなものでしたから。だから安穏廟の募集が終わるということは、長い長い旅が終わるような錯覚すら覚えてしまうのです。

これからはまた新しい気持ちで進んで行かなければなりません。終わりの始まりそんな言葉が浮かんでいます。年の瀬にふさわしい感慨です。どうぞ良いお年を！来年もよろしくお願いします。

行事案内

・お札配り

暮れのお経にお仏壇のある県内の全檀信徒宅をお伺いしています。その際に来年のお札をお届けし、法事の当たる精霊をお知らせしています。

・大晦日・除夜の鐘

十ページでご案内のように、大晦日の除夜の鐘を皆さんで撞いていただきます。客殿にも暖房とお茶の用意がありますので、遠慮なくお入りください。並ぶのがお気の毒なので、今年は整理券を用意することも検討中です。当日案内掲示をご覧ください。

・元旦年始参り

元旦と二日の朝九時から午後四時までご年始の受付。この時間帯住職がお待ちしています。新しい年の始まりは本堂へのお参りから始めましょう。お気軽にお出かけください。

・年回忌のお知らせ

妙光寺が葬儀をお受けした方で、来年に法事の当たるお宅には直接お知らせしています。法要は土日に集中しますので、日取りのご相談はお早めにどうぞ。

・星祭祈願

一年間の家内安全、健康、幸福を祈願する「星祭」は一軒二千円です。元旦の法要で祈願の上、家族全員の星を記入したお札を差し上げています。新規希望の方のみ、家族全員の氏名、性別、年齢を書いてお申込みください。遠隔地の方のお札は郵送します。

・位牌堂安置と命日のご回向

本堂脇の位牌堂に、申し込まれた方の位牌を安置して毎朝の法要で月命日に当たる精霊のご回向をしています。費用は年間一万二千円。継続の方は平成二十年度分を三月までにお願いします。この三十年間分（三十万円）からを永代供養としています。

・一泊二日の参籠研修

住職の体調不良で休止したお寺に泊まっての修行体験ですが、来年は五月ころに予定し、次号でお知らせします。

あとがき

十一月に準備して早々にお届けのつもりが用に追われ、暮れも押し迫って恐縮です。また取材の時間が取れず〝信心〟のページをお休みしました。ご心配おかけした体調不良はおかげさまで徐々に改善されています。先ごろようやく時間を作って人間ドックを受診しました。結果はまだ届きませんが大きな心配はなさそうです。冬場さらに休養して、忙しくなる春からに備えたいと思います。

来年も断りきれない講演がいくつか入り、前寺工事もあります。皆さんのお宅に伺うのは鎌田と矢部任せで、ゆっくりお話できないのが寂しくてなりません。どうぞ住職もお忘れなく、来年も宜しくお願いします。お体に留意されてよいお年をお迎えください。

（小川）